

小学校第5学年国語科学習指導案

日時 平成25年10月29日(火)

指導者 教諭 井上 泰宏

1 単元名

⑦説明のしかたについて考えよう(天気を予想する) 光村図書 P128～

2 単元について

(1) ねらいについて

本単元は、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすることをねらいとする。児童にとって身近でありながら、その仕組みはよく知られていない天気予報を題材とした説明的な文章の教材である。天気を予想する方法を知ること、科学技術の進歩が生活にもたらすよさを理解することができるであろう。後半、科学技術の進歩によっても予測しづらい現象があることを知ることで、身の回りの自然と人間の関わりをもう一度確かめることのできる教材である。

本教材には、表・写真・図・グラフが用いられている。各資料が何を表しているかを読むこと、それらを文章と対応させること、資料について文章ではどのように解説しているかを読むこと、資料があることで説得力が増しているかを確認することなどを学習する。資料と対応させながら説明的な文章を読み取り、自分の考えをもたせることで、学習指導要領C読むことウ「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること」を達成したい。また、「図表・グラフ」を用いた説明の効果について考え、感想を発表することは、社会科・算数科・理科にとっても重要な意味を持ち、学習の広がり期待される教材である。

(2) 児童の実態について

※ 省略

(3) 指導にあたって

- 本校は、国語科と算数科において少人数を実施している。算数では習熟別に授業を進めるが、国語科では2クラスを均一に3クラスに分け、1クラスが20名程度になるようにして授業を行っている。よりきめ細かな指導を目指している。
- 筆者の設定した3つの発問に対する答えを一つずつ整理することで、文章の構造と筆者のいたいことを分かりやすくまとめた。

- ICTを効果的に活用することで文章と資料の関連付けを行う。
- 図表や写真、グラフと文章を関連させる学習を社会科や算数科、理科の学習につなげていきたい。

ICT活用のポイント	
①教師の活用	・ デジタル教科書の図表や写真を映し出した電子黒板に、書き込みをすることで、情報を共有化しながら、文章と資料を関連付ける。
②児童の活用	・ 学習の振り返りを電子黒板で示したり、実物投影機でノートの内容を見直したりすることにより、前時の学習内容を想起させる。 ・ 電子黒板上のグラフに文章を根拠として、マーカーで印をつける作業をすることにより、資料の有効性を感じさせる。

3 単元の目標

筆者が伝えたいこと、論の進め方、図表などの活用について感想を発表し合い、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。

4 単元の評価規準

関	読	言
○題材、筆者の考え、文章の書かれ方に興味を持って読んでいる。	○筆者が事例、理由や根拠として挙げている事実を読み取っている。 ○筆者の主張、根拠を自分なりに評価する観点を持ち、筆者の主張についての意見を表している。	○語と語の関係に気をつけることで、文の意味がとらえやすくなることに気づいている。

5 指導計画及び評価基準（6時間扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	関	話	書	読	言	評価基準 評価方法
1	天気に関することを発表し合うとともに本文を読み、興味を持ったことや初めて知ったことについて感想を書く。感想を交流し学習計画を立てる。	天気に関する既存の知識について発表することで読みの構えを作らせる。表現の工夫について取り上げ、資料の活用のしかたを学習課題へつなげるようにする。	①					天気や天気予報について、自分の経験を進んで話し、興味をもって文章を読もうとしている。 (観察)

2	文章中の三つの問いを見つけるとともに、一つ目の問いについて、事実と筆者の考えを整理しながら、答えをまとめる。	三つの問いを見つけさせるとともに、ノートに一つ目の問いと答えをまとめさせる。図表や写真があることの意味を考えさせる。				①	三つの問いを見つけ、一つ目の問いについて答えをまとめることができる。 (ノート)
3 本 時	二つ目の問いについて、事実と筆者の考えを整理しながら、答えをまとめる。	二つ目の問いについてノートに問いと答えをまとめさせる。根拠となる文と対応させながら、グラフを読み取らせる。				②	二つ目の問いについての答えをまとめるとともに、グラフの効果について気づいている。 (ノート)
4	三つ目の問いについて、事実と筆者の考えを整理しながら、答えをまとめる。	三つ目の問いについてノートに問いと答えをまとめさせる。写真を使ってある意味を考えさせる。				③	三つ目の問いについての答えをまとめるとともに、写真の効果について気づいている。(ノート)
5	筆者が図表・グラフ・写真を用いた意図を考える。 P137を読み、語と語のまとまり、接続のしかたを確認する。	文章中に図表・グラフ・写真のない文章を示し、資料効果について考えを交流させる。 文章中の叙述を取り上げ語と語のまとまりや接続のしかたについて考えさせる。				④ ①	図表・グラフ・写真の効果について、筆者の意図を読み取り、まとめることができている。(ノート) 語と語のまとまり、接続のしかたについて理解している。(発表)
6	身近なものから、図表・グラフ・写真が使われた文章を探し、それらの資料の意図や効果について考える。	新聞やパンフレット、本などから、図表・グラフ・写真が使われている文章をあらかじめ探させておき、効果や使い方を発表させ、まとめさせる。				⑤	図表・グラフ・写真を使った説明の効果に気づき、整理している。 (発表・ノート)

6 本時の展開

(1) 目標 二つ目の問いに対して、事実と筆者の考えを整理するとともに、グラフの意図することと根拠となる文章を対応させながら、答えをまとめることができる。

(2) 展開

過程	学習活動、主な発問 (T) 予想される児童の反応 (C)	指導上の留意点・評価	備考 ICT活用
導入 5分	<p>1 前時の学習から、一つ目の問いと答えを思い出す。 (T) 天気予報の的中率はどうして高くなったのですか。 (C) 科学技術の進歩 (C) 国際的な協力の実現</p> <p>2 四～六の段落を読む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返りを電子黒板で示したり、ノートの内容を見直したりすることにより、前時の学習内容を想起させる。 ・四～六の段落を音読させる。 	電子黒板 デジタル教科書 実物投影機
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>さらに、科学技術が進歩し、国際的な協力が進めば、天気予報は100パーセント的中するようになるのだろうか。</p> </div>		
展開 32分	<p>3 筆者の考えが書かれたところに線を引く。 (T) 筆者は、天気は100パーセント的中すると言っていますか。 (T) 筆者は、なぜ天気予報を100パーセントの中させるのは難しいといているのでしょうか。 (C) 突発的に変化する。 (C) 局地的に変化する。</p> <p>4 突発的な天気の変化についてグラフと関連させて根拠をもって読み取る。 (T) 筆者は何を根拠に突発的に天気が変化するといっているのでしょうか。 (C) グラフ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の筆者の『問い』が書かれたところに赤線を、『答え』が書かれたところに青線を引かせる。 ・筆者の考えが書かれたところを文章に沿って整理することにより、筆者のいたいことを整理する。 ・難しい理由を2つあげさせる。 ・突発的に天気が変化するという筆者の考えの根拠となる事実をグラフと関連づけながら読み取らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>能動型学習 文章と関連付けられる部分をグラフに書き込む。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【読むこと】 (書き込み) (B 基準) グラフの意図することと根拠となる文章を対応させながら答えをまとめることができる。</p> </div>	電子黒板 デジタル教科書 電子黒板 デジタル教科書

	<p>(T) 文章のどこに書かれていますか。</p> <p>(C) 百六十回以上</p> <p>(C) 二百三十回以上</p> <p>(T) グラフのどこを見るとわかるでしょう。わかったことを交流しましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【言語活動】（設定の意図） 筆者の根拠を読み取らせるために、資料が何を表しているかを読むとともに、資料を文章と対応させながら読むことができるようにする。</p> </div> <p>5 グラフがない場合とグラフがある場合は、どう違うか考える。</p> <p>6 局地的な天気の変化について根拠をもって文章を読み取る。</p>	<p>(A基準)</p> <p>グラフの意図することと根拠となる文章を対応させながら、自分の考えを含めて答えをまとめることができる。</p> <p>〈B基準に達していない児童への手だて〉 電子黒板に文章と表やグラフを対応させて色分けして記入することにより、視覚的に理解しやすくする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板上で、グラフを見えなくする。 ・グラフや表等の資料があることで、わかりやすくなるし、説得力が増すことに気づかせる。 <p>徹底指導</p> <p>資料を効果的に使用することで説得力が増すことを押さえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章中から根拠を読み取らせる。 	電子黒板
終末8分	7 本時を振り返り、感想を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・実物投影機と電子黒板を活用して本時の感想を紹介し本時を振り返る。 	電子黒板 実物投影機